

ユーザーニーズを反映したシンプルで安価な「バスロケサービス」を提供し、若年層を中心に路線バス利用者を拡大、地域交通課題の解決を目指す。

採択事業者名 株式会社ハートネットワーク(愛媛デジタル推進グループ)
 コンソーシアム構成員 愛媛大学/ソフトバンク株式会社/瀬戸内運輸株式会社/株式会社ハートネットワーク

勉強会の実施概要	
勉強会の目的	本システムの概要や課題に対する成果を共有し、各地域の交通課題と本システムのマッチング度を検討してもらい、システム取り扱い事業者の拡大や導入地域を拡大させ、地域交通課題の解決を図る。
勉強会の当初のゴール想定と結果	市民を含めた地域一体となった協議の場、自治体に向けた勉強会、交通事業者や販売代理店を対象にした報告会を想定していた。結果、市民、自治体、事業者、開発者での公開ディスカッションの開催、新居浜市職員向け勉強会、オンラインでの報告会を実施した。コンソーシアム内では、月に2回勉強会を実施した。
参加者	①公開ディスカッション:市民、自治体、事業者、開発メンバー他約50名参加 ②新居浜市職員向け:職員約20名 ③オンライン報告会:自治体、企業(バンダー、ケーブル事業者等)約50名参加
協議アジェンダ	報告会では、事業概要、地域課題、開発コンセプト、成果、システム説明を行った。公開ディスカッションでは、住民としての交通課題、自治体の対応状況、バス事業者の課題と本事業での成果等を議論した。
データに基づく協議ポイントの整理	①運行データの収集 → 路線・時刻表の改善 ②ユーザー属性の収集 → 利用者ターゲットの設定・アプローチ、広告営業利用 ③ユーザーの利用履歴の収集 → 路線・時刻表の最適化
主なデータ項目	①運行データ:バス停間の所要時間、遅延頻度・率/路線、時間、バス停 ②ユーザー属性:ユーザー登録者の性別、郵便番号、生年月日 ③ユーザーの利用履歴:お気に入り登録路線・場所、検索データ
協議におけるガイドライン(含む具体例)	取得した運行データをあらゆる角度から分析することが必要。どの路線で、どの時間帯で、どのバス停付近で遅延が生じるかなど分析を行い、さらにその理由を追求する。また、ユーザーの利用データは、利用者ターゲットを設定するため属性を分析。利用者の利便性を向上させ利用者を増加させるために、検索履歴から人気のある路線・行き先を分析する。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	渋滞等によるバスの遅延の発生が利用者減少の理由の一つと考えられる。遅延バスを減らすためには、データに基づき路線便数の調整や時刻表の見直しによる最適化が必要と思われる。また、利用者データは、今後の利用者増プロモーション等に活用できると思われる。

運行データ例 時間帯/路線時間	A路線 所要時間	B路線 所要時間	C路線 所要時間	D路線 所要時間
6:00~10:00	70分	80分	60分	40分
10:00~13:00	60分	70分	50分	30分
13:00~16:00	55分	65分	45分	25分
16:00~19:00	70分	85分	70分	50分



データ活用・協議の具体例		
	実装前	実装後
重要指標例	<ul style="list-style-type: none"> 遅延と路線・時刻表の関連性を分析し改善 → 路線毎に時間帯、バス停区間の所要時間を分析し、路線・時刻表の最適化 = 運行データに基づき最適化された時刻表を作成し、バスの遅れに対する利用者の不満を解消 利用者の属性や利用履歴を分析し、利用者アップに向けた効果的な取り組みを実現 	
データ取得	<ul style="list-style-type: none"> 運行管理がデジタル化されていないため、運行状況はデータ化されていない 渋滞や利用者の乗降による遅延は、運転士の報告にとどまる。 利用者の属性や属性と紐づけた行き先等の利用情報は運転士の報告の範囲から想定 	<ul style="list-style-type: none"> 【運行管理システムの導入により】 運行データの取得が可能 データの分析により路線・時刻表の最適化を検討 【ユーザーアプリの公開により】 利用者の属性データの取得が可能 お気に入り登録や検索などのデータ取得が可能
データ利用	<ul style="list-style-type: none"> 運転士の日誌に記載 	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスの運行データをシステムサーバに収集・蓄積 利用者の属性、利用履歴をシステムサーバに収集 csvデータを書き出し、加工 データ連携基盤と連携し、BIツールで可視化(予定)
実行	<ul style="list-style-type: none"> 運転士の主観が入るため、精緻なデータとして活用は困難 	<ul style="list-style-type: none"> 運転士の報告、ユーザーの意見を正確なデータと合わせ分析・検証することにより、路線・時刻表の最適化を図る 利用者データを分析・検証することにより、利用者像に向けたプロモーションを実施
協議	<ul style="list-style-type: none"> 正確なデータがないため、協議材料が提供できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記で明確化されたデータに基づき、運転士、管理者、ユーザー対応オペレーター等による利用者の利便性を向上させる協議が可能 上記で明確化されたデータに基づき、経営者、営業部門による利用者増に向けた取り組みの競技が可能

データ活用・協議による成果		
項目	これまで	データ活用・協議を踏まえて
遅延による利用者の不満解消	オペレーターの対応による不満解消が100%	路線・時刻表の最適化によりオペレーター対応が80%減
利用者拡大に向けた取組	データがなく具体的な取り組みができない	データに基づいたパーソナ分析により効果的な取組を実現